

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1191800224		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホームプレミア草加南		
所在地	埼玉県草加市柳島890-4		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	平成29年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成29年3月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・往診医との連携が密に図れており体調不良者や怪我等にも早期の対応を行ない、ご家族への報告も含め安心した生活と家族の不安軽減に努めている。  
 ・お一人お一人の状態を詳細に把握し対応を行う事により、個性に特化したケアの実施と居心地の良い環境作りを行っている。  
 ・ボランティアの方や認知症予防体操講師と接する機会が多いので、施設内だけの狭い空間ではなく社会との交流や外部からの刺激を多く感じる生活を送っている。  
 ・複合施設の利点を生かし、今後の不安や相談を受け様々な方向性での提案を行ない、住み慣れた環境での暮らしが継続できる支援を行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・ICFを活用した事例検討会が行われ、従来より職員間で話し合う機会が増えたことから、利用者の課題や可能性をよりよく知ることができ、具体的な対応で利用者の支援に繋げることができている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「職員の方の対応がきめ細かく、とても安心してお任せできます」、「よく運動(体操)しているので、身体の衰えも少なく、また気もまぎれていると思います」などコメントが寄せられ、ご家族が十分満足し、感謝している様子が伺える。  
 ・目標達成計画の達成状況については、運営推進会議への参加を呼びかけられていること、災害についても地域の方が事業所を見学され、様子を理解していただき、協力関係も密になってきたことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりに合ったサービスの提供を基本とし、事例検討を半年計画でチームで取り組む事により、安心して生活できる環境作りを行った	定期的な会議で利用者の意向を確認し、利用者の視点に立ったケアに努められている。利用者がその人らしい生活が営めるように職員間で理念を共有し、「信頼と共感、安心」に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	『RUN伴』草加市内では初めての試みだが、地域包括が中心となり、認知症を知り認知症の方と家族を地域で支えていくを広める活動への協力を行った。	地域交流会としてチャイルドパークの開催やハンドベル、スポーツ吹き矢、ハーモニカなどボランティアの訪問のほか、地域の盆踊りや秋祭りなどに参加をされている。今後はもっと開かれた事業所を目指すことを課題とされ、取り組み方法を検討されている。	回覧板や掲示板を活用し、事業所をもっと知っていただくために、地域の方々の相談場所として多くの住民の方が事業所に来訪され、より開かれた事業所になることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の婦人会の依頼を受け、『認知症について』の講演への依頼を受け、この施設を提供し行う事で準備を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事のお知らせや活動報告を行い意見を伺っている。施設行事(秋祭り)では、民生委員の方々の来所を受け施設の役割を知って頂く事ができた。	事業所の取り組み状況の報告のほか、参加者からは地域の情報をいただき、双方向の話し合いがなされている。民生委員の発案で、認知症の勉強会や施設見学が実現され、事業所が相談できる場として理解が得られるよう取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ相談があった時の問い合わせでは、見学対応と介護相談を受け、必要時には支援を受けられるシステムの説明等を行っている。	市からは研修案内をいただき、できる限り参加することを心掛けている。困難ケースの相談にのっていただくこともあり、相互関係を密に図ることに努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修では身体拘束廃止と身体拘束の具体的な事例を用いての講義を行い、職員への周知を図っており。実践の業務の中でも都度説明を行っている。	ICFを用いて利用者の支援方法を探られている。例えば、ベッド脇にマットレスを敷き転落に備えられたり、徘徊は運動する機会と捉え、一緒に歩行訓練を実施するなどの対応で支援に繋がられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止と入居者の尊厳を守る事の意識づけは研修で行っている。事業所全体では、『緊急保護』の要請にて受け入れた実態がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に入居者の中でも成年後見制度の必要性がある方もいるため、社協への相談も行った。身近かな問題として感じ、施設内研修で学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の段階で一度説明を行い、入居確定後の契約時に再度詳しく説明、不明点解消後に締結している。入居後も随時問い合わせへの対応と解決を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に管理者・副主任・職員と会話をする機会を持ち、近況の報告と気軽に要望を伝えられる環境作りを行っている。	利用者の要望で体操を取り入れ、身体機能低下予防に役立てられている。家族からの心配事や要望は面会時や電話でも聴き取られるほか、アンケートも実施されている。家族からは「よく話を聴いてくれる」と感謝の言葉をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では発言の少ない職員もいるので、定期的に個人面談を実施、個々に合わせた内容で話し合う場を持っている。	イベント企画やレクリエーション活動、備品の購入など、どんなことでも相談がしやすい環境で、事業所の運動会では、職員の提案でチーム対抗戦が実践され、とても喜ばれている。また、ホーム長は職員と定期的に面談の時間を作られメンタル面にも注意が払われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格・経験を加味した給与水準の対応をしている。規定の休憩時間・休暇取得も成されており職員もオープンメンバーから3年ほど定着している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修が実施されており、同じ内容の研修が2回設けられているので参加しやすくなっている。職員の力量に違いがあるため、必要に応じた個別指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会が各月で開催されている。また、空き情報を把握し入居相談等で満室の場合には紹介をする事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族とご本人との面談を行い、細かい情報収集に努め事前のリスク管理を行う。また、入居後は職員が積極的に接する事により信頼関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から契約に至るまで、管理者と計画作成担当者が窓口になり、ご家族の不安や疑問点について解るまで説明を行い、安心してGHの生活が始められるように支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には、現状の理解と介護サービスの必要性を見極め、在宅生活継続が可能なかな等を鑑み様々な方向性での説明を行い、必要なサービスに繋がる相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々には、声掛けや少しの支援で出来ることが多く残されているので、自身の身の回りの事を始め炊事・洗濯・掃除等を一緒に行っている。ご本人の満足感と自立支援を促している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外泊・外出・家族旅行等、家族と本人の希望が可能な限り実現できるように支援している。日常生活の様子についてはリアルタイムで報告と相談を行い本人の望む生活に近づける対応を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に住まれていた近所の方の面会や学生時代の友人と外食に行かれる・友人の書道展に招待され外出される等の支援を行っており、今迄の生活に近い日々を過ごされています。	同級生、カラオケ仲間などのほか、家族と一緒に外食や法事等に参加をされている。外泊をされた利用者は、事業所に「ただいま」と帰られるほど事業所が「自分の家」として馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動・散歩・体操・お茶の時間、様々な場面で無理のないように配慮しながら、利用者同士の交流が図れる環境作りと支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご相談の連絡が入る事があるので、適宜アドバイスや相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉は職員間で申し送りがされているので、ご本人の意向を受け止め、希望が叶えられるように相談と実現に向けた対応を行っている。	日頃の何気ない会話や行動から思いを確認されている。帰りたいと訴えられる利用者には共感し、事業所が自分の居場所として認識していただけるように努められている。困難な利用者にはチームで取り組まれ、対応策を検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談でアセスメントを行い全職員が情報を把握している。サービスの開始後の情報も職員が周知できるシステム作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細な申し送りノートが各ユニットに設けられており、日々の暮らし方や身体状況の変化・往診での支持事項・出来た事出来なかった事等の記録があり状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に報告と要望の確認を行い、居室担当始め各職員と問題点の抽出と、利用者の要望や自立支援に繋がる事を話し合い計画書に取り入れている。	利用者一人ひとりの詳細なアセスメントを踏まえ、課題や支援方法が検討されている。ICFを取り入れ、活動がマンネリ化にならないように工夫し、いつまでもできることが行えるように、具体的な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はパソコンとノートでの手書き記録を共存させ、必ず確認のサインを書く事になっており、休みであっても遡って情報収集ができ漏れのないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内の活動だけではなく、事業所全体で進めている地域交流活動への参加や外出機会を持つ事により、要望の強い外部交流が図れる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコミュニティーセンターや社協を訪れ資源の把握と活用に繋げる関係性を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に同意のうえ月2回の往診を受けると共に体調不良時には受診を行っている。急変に備え主治医と24時間体制で連絡できる体制を整備。週1回看護師による定期的な健康管理を実施。	専門病院を受診する際は、職員が付添われ、日頃の様子を伝えられている。薬や病状に関する助言は申し送りノートを活用して職員間で共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時には、報告と相談を行い支持を仰いでおり、不在時には特養看護職員に相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、往診医より情報提供があり適切な治療が出来るバックアップが行われている。入院中は職員が面会に行き、状態確認と経過を伺い、ご家族とも連絡を取り合う事によりスムーズな退院に結びついている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針に沿った看取り介護を実践している。27年度末家族会では、重度化・急変時の医療行為をどこまで求めるかご家族の要望確認を行った。ご家族には詳細な報告と協議をしたうえ終末期の介護に協力をいただいている。	個々の利用者に合わせた「看取り対应手順書」が作成されており、研修も行われている。併設のショートステイや特養とも連携が図られ、チームとして最善の方法で取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法を作成し、全ての職員が対応できる指導を行っている。応急手当等の研修は施設内研修で学ぶ機会をもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルの作成と共に、年2回の防災訓練を実施している。	併設の特養と合同で実施され、地域の方と連携の仕方について検討をされている。また、非常時の持ち出し品を充実させたいと準備に取り組みされ、さらに、水害の避難訓練を予定されている。	地域の方と合同訓練実施に向けた声かけを継続されること、また、水害の訓練では階段を上る必要があると想定されることから、日頃の運動に階段昇降を取り入れるなど検討されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時のアセスメントで一人ひとりの生活歴と性格等を知り、自尊心やプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。	職員の意見を押しつせず、利用者の生活歴に共感することで、よりよい支援に繋がられている。利用者を敬う態度やプライバシーにも配慮した対応で、信頼関係が築けるように取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中でご本人の思いや求めている事を引き出し、可能な限り実現できる支援を心がけている。また、ご本人に確認し実行に移している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居されている方々の年齢に幅もあり、起床や就寝時間は元より、活動量や睡眠時間にも違いがあるのでご本人のペースを尊重した生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や洗顔後に化粧水を使用される等を把握し、残り少ない時には家族に連絡し持参を依頼している。外出予定の時には普段着ではなく外出先に合わせた衣類に更衣できるよう一緒に準備を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの嗜好はアセスメント時に把握しているので、毎日の献立では代替できる物を準備し対応している。盛り付けや準備・食器洗い等のお手伝いを一緒に行っている。	献立表は1週間ごとに掲示され、週1回、パン食の日を設けられている。食事形態にも配慮がなされ、食材ごとにミキサーにかけられるなど、見た目も美味しいと感じていただけるように工夫をされている。また、ファミリーレストランや回転寿司など外食も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本はカロリー計算された献立表を基に食事の提供を実施、嚥下状況や義歯の状態でご本人に合わせた形態で提供しほぼ全量摂取できている。在宅中から少なめの食事量の方は無理に進める事のないよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎水曜日に歯科往診の診察と口腔衛生の指導があり、毎食後は声掛けで全員の方が歯ブラシを実施している。状態に合わせた声掛けと介助を行なっている。夕食後は義歯洗浄剤使用で清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ使用中の方もいるが、全員がトイレでの排泄を実施している。本人の状態や習慣を把握しトイレ誘導を実施、夜間帯にも排泄間隔に合わせた声掛けと付き添いを実施している。	排泄場所がわからない利用者や失禁をしてしまう利用者には誘導を繰り返されたり、「きれいにしましょうか？」と声をかけ、できるだけトイレで排泄が行えるように支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ後の排便確認と排泄表の記録に落とす事により全職員が状況を把握している。本人に合わせて牛乳の提供や多めの水分摂取を促し、また歩行する機会を設ける等、個々に合わせた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合わせた声掛けの工夫により、無理強いしない入浴と清潔保持が実施できている。その日の体調や気分により入浴日を変更する対応をしている。	拒否をされる利用者へは入浴の理由を説明し、楽しく入浴をされている。併設の事業所の機械浴も利用でき、重度化にも備えられ、湯は都度交換され、気持ちよく入浴ができるように取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に合わせた臥床時間で支援している。リネンの交換や室温にも注意を払い環境整備を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬情報の確認を行い服薬介助をしている。往診時には様子の報告と変化を主治医に伝え、必要な支持を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好む役割を行える配慮をしている。今までの生活歴を把握して指導者になる機会や好きな活動に参加できるように様々なレクを提案・企画し楽しめる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行く事が好きな方が多いので、天候の良い日には近隣を散歩し出会った方とお話しをしたり、コミュニティセンターに寄る機会もある。お墓参りの希望時には家族と出かける環境作りをしている。	天気が良ければ毎日散歩が行われ、神社やスーパーなどへ出かけられている。花見や鯉のぼり、イルミネーション見学、公園の散策など季節を感じながら外出を楽しまれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物取られ妄想の周辺症状が見られる利用者が多いので、居室内での所持は現状困難である。外出時に職員や家族と買い物ができる機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきを書く方がいるので、同じ方に重複していないかの確認を家族より依頼されているので確認後出している。携帯電話の所持も制限がないので持参されており、ない方はリビングの電話を使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングでは皆さまと交流できるソファが置いてあり、楽しく会話している様子見られています。四季を感じられる物を掲示し目から四季が解るよう心がけています。	利用者の状態を考え、広々とした共用空間にはソファが置かれ、シンプルではあるが季節が感じられる作品が飾られ、くつろぎの場となっている。また、大型の空気清浄機が設置され、感染症対策にも役立てられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽の当たる窓の椅子で日向ぼっこをしたり、カウンターで飲み物を飲みながら職員と会話をする様子見られる。気の合う方とおしゃべりテーブルでお手伝いをして下さるなど個々に自由な時間を持っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれにご家族が本人に合った家具や、面会時に一緒に話せる椅子・テーブルを持参されている。仏壇の持参もあり各々に住みやすい空間となっている。	テレビや椅子が置かれ、一人の時間が楽しめるようにその人らしい居室が作られている。シーツ交換や掃除は職員と一緒に行為れ、清潔な環境を整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なく移動できる環境整備を行い、トイレの掲示をする事により可能な限り自身の力で安全に動ける配慮をしている。職員の声掛けとさりげない誘導で、自身で出来ているという満足感が得られるように心掛けている。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名:グループホームプレミア草加南

作成日:平成 29年 5月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	介護職員の確保と質の向上は施設運営においては継続した課題となっています。専門職としての自覚を持つ事とレベル向上を図り、個性を理解しながらの安定したサービスを提供できる職員の育成が求められる。	介護経験が長くてもマニュアルがないと必要な支援が実施できない現状を踏まえ、利用者の変化に気づき課題分析を行い必要な支援を考えられる職員の育成を行っていく。	・居室担当制を生かし、利用者のモニタリングとアセスメントを各職員が行う事により課題抽出と分析能力を養う。段階を経てチームで対応策を考え実践できる職員を育てる。 ・個別ケアの意味と必要性が理解できるように、ユニットケアの勉強会を行う。	12ヶ月
2	35	火災を想定した避難訓練が主流になっているので、様々な災害を想定した訓練と準備が必要。	災害時の対応策を定期的に見直し、訓練を通して全職員が把握し実践できるようにしていく。	・地震や水害を想定した訓練の実施。 ・複合施設の利点を生かし、建物全体での避難方法を構築し実践に生かせる訓練を行う。 ・水害の想定では、建物上階への避難が必要になるので、日常的に階段歩行の機会を持つ。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。